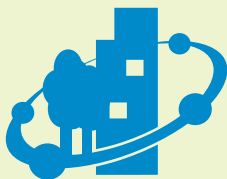




昭和46年当時の北海道大学正門前（北区北8西5）の様子。当時短大生の大橋さんは、通学に市電鉄北線を利用していました

大橋年がばれちゃうんですけれど、私がいたころはまだ地下鉄がなく、北大前の通りを市電が走っていたんです。もちろん、短大へは市電で通学していました。とにかく友達や仲間と会うのが一番楽しいときで、たまに学校をサボって大通公園に行ったこともありますよ。もう三十年くらい前になります。

例えば音楽の分野では、コンサートホールKitaraができたことが典型的だと思います。大橋私はまだ見たことがないんですが、いつかKitaraのステージに立ってみたいですね。市長演奏された音楽家の方々ももちろん、それ以外の方からも環境や音響効果などで、非常に良い評価をいただいています。わずか五年で、国外からも高く評価されるようになったKitaraは私たちの誇りです。大橋Kitaraにも言えることですが、北海道の人って名称の付け方が非常に個人的でおもしろいですよね。特に、コンサドーレという響きは、スペイン語のような感じがしたのですが、意味を聞いてびっくり。実は「どさんこ」をひっくり返したのだと。え！という感じでした。（笑い）市長そう。このドームの愛称HIROBAもそうですが、一つひとつの名称に親しみがあり、遊び心もあるんですよ。これも、広い意味では文化といえるのかもしれないね。



いいものをすつと 取り入れる素直さが 魅力的な街



世界水準の音質を誇る札幌コンサートホールKitara。シンボルのパイプオルガンがある大ホールのほか小ホールもあり、多彩なコンサートが開かれています

司会大橋さんは、東京に移られてからも札幌のことを随分PRしてくださって、ご自分のことを「札幌の宣伝部長」と称されているそうですね。

市長東京の恵比寿で行っている「サッポロウィーク」では、大橋さんに二年続けて参加していただいたんですよ。宣伝局長とでも宣伝助役とでも名

乗っていたら、これからも札幌のPRをよろしくお願います。大橋じゃ、今年からは宣伝局長にさせていただきます。（笑い）市長恵比寿の会場は、大橋さんの歌を聞きに来た大勢の人で盛り上がり、私たちも大変喜んでいきます。大橋私は札幌という街がものすごく好きなんです。いいものをすつと取り入れる非常に素直なところをもっている街だと思っんです。音楽やフアッションの分野でも、札幌ではやるものは、全国に流行するという通説がありますね。市長街が持つさまざまな特性が凝縮されているのが、都心なんです。ただ、札幌の都心はこれまで、しっかりとした意識を持ってつくられてきたわけではなく、何となく自然にできてきたところがあるんです。そこで、去年、「都心のまちづくりビジョン」と「都心交通ビジョン」という構想を市民に提案しました。皆さんと一緒に考えながら、札幌ならではの楽しみや活気をおおらかさやゆとりがある都